

主の晩餐の制定

—コリント 11:23-26

第二朗読 コリントの信徒への手紙 — 11:23-26

(皆さん) わたしがあなたがたに伝えたことは、わたし自身、主から受けたものです。すなわち、主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。だから、あなたがたは、このパンを食べこの杯を飲むごとに、主が来られるときまで、主の死を告げ知らせるのです。

福音朗読 ルカ福音書 9:11-17

(そのとき、イエスは群衆に) 神の国について語り、治療の必要な人々をいやしておられた。日が傾きかけたので、十二人はそばに来てイエスに言った。「群衆を解散させてください。そうすれば、周りの村や里へ行って宿をとり、食べ物を見つけるでしょう。わたしたちはこんな人里離れた所にいます。」しかし、イエスは言われた。「あなたがたが彼らに食べ物を与えなさい。」彼らは言った。「わたしたちにはパン五つと魚二匹しかありません、このすべての人々のために、わたしたちが食べ物を買に行かないかぎり。」というのは、男が五千人ほどいたからである。イエスは弟子たちに、「人々を五十人ぐらいずつ組にして座らせなさい」と言われた。弟子たちは、そのようにして皆を座らせた。すると、イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。そして、残ったパンの屑を集めると、十二籠もあった。

説教

灰の水曜日から聖霊降臨の主日まで 3 ヶ月以上にわたって過ごしてきた四旬節・復活節もきょうのキリストの聖体の祝日をもっておしまいになります。いつもは福音書の内容で説教をしていますが、きょうは第二朗読のパウロの手紙、コリントの教会への手紙第一に注目します。

主イエスは、引き渡される夜、パンを取り、感謝の祈りをささげてそれを裂き、
「これは、あなたがたのためのわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。また、食事の後で、杯も同じようにして、「この杯は、わたしの血によって立てられる新しい契約である。飲む度に、わたしの記念としてこのように行いなさい」と言われました。一コリ 11:25-25

これははイエスのことばのもっとも古い文書記録といわれています。いまの聖書の目次では福音書、使徒言行録の次にパウロ書簡ですが、成立順ではパウロ書簡、福音書だろうといわれています。

わたしたちは毎週日曜日にキリストの聖体をいただく式をおこなっています。週に一回の聖餐式です。では毎日聖餐式をおこなってはダメなのか？というところではないようです。毎日でもかまわないという考え方もあり、実際に毎日聖餐式を執行している教会もあります。キリストの体をいただくという聖餐の儀式は毎日でもかまわないし、極端にいつてしまえば一生に一回でもいいのかもしれませんが。

イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を仰いで、それらのために賛美の祈りを唱え、裂いて弟子たちに渡しては群衆に配らせた。すべての人が食べて満腹した。
ルカ 9:16-17

イエスさまの裂いたパンをいただいた五千人はまた来週もおなかをすかせてイエスさまのところに押し寄せるでしょうか。わたしが五千人の一人なら一生に一度の思い出として大切にするとおもいます。現代でもすばらしい聖餐にあずかって、もうこれっきりでいいやと思うかもしれません。

礼拝技法が発展して一ヶ月に一回の礼拝だけの教会が生まれる？あるいは天

才的な司祭が現れて一年に一回、一生に一回、イエスさまのご聖体をいただくことで永遠の命にあずかることができるかもしれません。しかしながらその一方では、わたしたちは弱い人間という現実があり、おまけに忘れっぽく、欲深いので一週間に一度、あるいは月に一度はイエスさまのご聖体をいただくことが必要なのでしょう。

キリストのからだの教会がパンとワインをいただく儀式をとおして、いきいきとした信仰共同体になり、また信仰をもつすべての人たちと国や宗教の違いを越えて敵対するのではなく一致を求めるすてきな教会となりますように。

使徒信条

わたしは、天地の造り主、全能の父である神を信じます。

また、その独り子、わたしたちの主イエス・キリストを信じます。

主は聖霊によって宿り、おとめマリヤから生まれ（ここで礼をする）ポンテオ・ピラトのもとで苦しみを受け、十字架につけられ、死んで葬られ、よみに降り、三日目に死人のうちからよみがえり、天に昇られました。

そして全能の父である神の右に座しておられます。そこから主は生きている人と死んだ人とを審くために来られます。

また、聖霊を信じます。† 聖なる共同の公会、聖徒の交わり、罪の赦し、体のよみがえり、永遠の命を信じます アーメン

共同祈願

いのちの源である神をたたえ、感謝のうちに祈りましょう。

- ・ 主の食卓に招かれ、キリストのいのちに養われるわたしたちが感謝のうちに、あなたのいつくしみをあかししていくことができますように。
- ・ 現代の人々が心に感じている飢えや渇きを顧みてください。一人ひとりに注がれている聖霊の息吹に目覚め、深く満たされますように。

・（あなたに必要な祈りを追加してお祈りしてください）

神はゆたかないのちを与えてくださる。

わたしたちの主イエス・キリストによって。アーメン